

R.4.12.13 藤沢市地球温暖化対策

地域協議会 3-2-3 所稿

Date

No.

令和3年度の藤沢市の容器包装プラスチック等排出状況

資料によると、藤沢市の総人口はR.3年度は平成23年度1.06倍増加し、440,487人になっているのに

総プラスチックのR.3年度は平成23年度対比1.2倍

プラスチック製容器包装は同1.21倍

ペットボトルは同1.37倍 1.38倍

食品プラスチックは平成24年度対比1.23倍とあり

人口の増加率1.06倍に対しプラスチック等ゴミの増加は顕著であります。

藤沢市の令和元年度の実績で、プラスチック製の資源不費用(リサイクルプラザでの費用)は約4億7570万円を要しています。

このリサイクルプラザでの資源化は焼却炉等でCO2を廃出するに比べ、地球温暖化の原因とあります。

市の家庭ゴミの収集センターでは毎週1回、プラスチック製容器包装が約10万袋は常に大箱3袋、2袋を排出しています。

最近のCOP28(エジプト会議)で、産業革命時対比2050年までに地球の温度を1.5℃に抑える目標が再確認

これです。

又、地球の温暖化により、北極や南極の氷が解け出し、南の島国の国土が海水に侵蝕され、住民の移住の問題が緊急の問題となっている。

更に、中国の大雨による浸水、アフリカ、フランスの干ばつによる農産物への被害等、地球温暖化による異常気象は世界各地に発生している。北米における山火事の多発もその一例である。

日本も例外ではありません。春の感覚では季節が50年程前に戻った、1ヶ月ほど遅いと思ったり。夏の蝉の鳴き声も昔と比べて遅い。季節の指標が生態系がくるまるとからずかた遅く来たという。

地球の温度を産業革命前比で約1.5℃に抑えるには、気候変動枠組条約の目標を厳格に推進（このように、我々大人の責務である。我々の子や孫に持続可能な地球を引継いだら、我々もこれに貢献する）の採用を極力抑えるため、家庭での排出を少しでも削減（3R実践）しなければならぬと考えています。

以上

資料1 藤沢市 沼中河川沿いの水質調査の結果

2. 10. 決算報告書

2412号 沼中河川